

コミュニティと公共によるまちづくり

- 武蔵野市・都市マスタープランづくりの現場から -

社会研究部門 篠原 二三夫

2. 市町村のマスタープランとは何か

戦後の急激な経済成長と都市化によって、大都市圏を中心に土地利用は混乱し無秩序な街並みが形成された。従来の受け身の土地利用・都市計画制度はこのような状況に対し無力であることが分かり、都市成長を管理・調整する必要性が問われ出した。ただ、それには様々な利害がからみあうため、住民や店舗、企業、団体等からなるコミュニティとの徹底的な対話と合意形成が必要である。ドイツの厳格な都市計画制度では、適切な計画策定の前提として、この過程が明確に織り込まれている。

このような認識から、1992年に都市ビジョンの明確化、計画的土地有効利用、バランスある都市形成、魅力ある都市環境形成等を目標とする都市計画法の改正が行われ、同時に目標達成のために、市町村に対し住民の意見を反映したマスタープランの策定が義務付けられた。コミュニティからみれば、その意思を反映できる重要な機会が、初めて法的に担保されたわけである。

近々、地方分権の趣旨を踏まえて都市計画法の改正が行われる。都道府県も市町村のプランを極力反映した独自のマスタープラン策定を義務付けられる。このため市町村のプランは一層重要な都市計画の基盤として位置付けられることになる。

平成10年1月末の建設省調査によると、2,025

1. 市町村マスタープラン策定の現状

のマスタープラン策定対象市町村のうち、286が策定を終え、845は策定中である。プラン策定が義務付けられてから数年以上が経過したが、策定中を含めた合計は1,131件、56%程度である。ただし、都市化が相対的に進んだ市部ではそのニーズを背景に75%に達している。プラン策定には多くの時間と人的資源の配分が必要であり、小規模な町村にとっては決して容易な課題ではない。この点を念頭に置くと、この進捗状況はむしろ評価されるべきかもしれない。

図1 市町村マスタープラン策定状況

	策定済	策定中	未着手	合計
全国	286	845	894	2,025
うち市	112	411	171	694
うち町村	174	434	723	1,331

(資料) <http://www.moc.go.jp/city/plan/shimasu/>

3. 武蔵野市の事例にみる今後への期待

市町村マスタープランは実際にはどのようにして策定されているのだろうか。ちょうど、筆者が市民として参加した東京都武蔵野市のプランづくりの概況^(注1)が、昨年11月に市報・インターネット等で中間報告として公開されたので、若干の余談を含めてご紹介したい。

計画案においてめざすべき2020年の都市像は「環境共生・生活文化創造都市むさしの」である。網羅的な都市像ではあるが、東京という既成市街

地の西端に位置し今後も都市化の波にさらされる武蔵野市らしい環境共生への決意が前面に打ち出されている。

めざすべき都市像・生活像を策定する過程では、生々しい具体的な課題も真剣に議論された。単純な合意が導かれることはないにしろ、市とコミュニティによる理想実現のための避けては通れない重要課題として、外郭環状道路の市域通過や南北都市計画道路等の問題、元国有地の活用問題、団地再生事業などがマスタープランの一部に明確に記された。これは、両者のコンセンサスづくりの第一歩であり、大きな成果である。

「実現に向けての考え方」には公民による役割分担、啓発、ルール策定、情報公開、環境負荷への配慮、財政の効率化など、今後の取り組みへのガイドラインが掲げられた。これらの制度化は、今後まちづくりの軸となるコミュニティ活動育

成のために重要である。これは市民を含むまちづくり関係者間のいわば基本協約である。

このプラン策定に当たり、市は計画担当以外の部署から若手職員を議論に参加させた。職員らは本音で率直な意見を述べた。市民に加え、企業や活動団体のリーダー、建築士・弁護士などの専門家も自らの時間を割いて積極的に議論に参加した。

市の職員を含め、関係者の負担は確かに大変なものであった。しかし、プラン策定を通じ、個々の利害がコミュニティレベルから広い社会の合意形成へと昇華され得る、本来あるべきまちづくりのプロセスが脈々と動き出している。これが武蔵野事例を体験した私の実感であり、今後のまちづくりへの大きな期待でもある。

(注1) 策定委員長は慶応義塾大学の日端康雄教授。中間報告なので、最終報告までに多少の修正はありうる。

図2 2020年の武蔵野市 - 武蔵野市都市マスタープラン策定委員会中間報告より

The image displays four panels from the 2020 Musasino City Master Plan. The top-left panel, 'めざすべき都市像' (Target City Image), describes a vision of a city where residents can enjoy a safe and secure life while contributing to environmental sustainability. The top-right panel, 'めざすべき生活像' (Target Lifestyle), lists specific goals for living, such as having a safe and convenient environment, being able to move around easily, and having a sense of community. The bottom-left panel, '実現に向けての考え方' (Thoughts on Realization), outlines five key strategies: 1. Diverse participation, 2. Information disclosure, 3. Allocation of responsibilities, 4. Active management, and 5. Establishment of a support system. The bottom-right panel, '都市マスタープランの見直し' (Review of the Master Plan), discusses the importance of reviewing the plan as the city's conditions change.

(資料) 武蔵野市広報および http://www.city.musasino.tokyo.jp/japanese/m_plan

・本レポート記載のデータは各種の情報源から入手、加工したものではありません。その正確性と完全性を保障するものではありません。
 ・本レポート内容について、将来見解を変更することもあります。
 ・本レポートは情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、契約の締結や解約を勧誘するものではありません。なお、ニッセイ基礎研究所に対する書面による同意なしに本レポートを複写、引用、配布することを禁じます。
 Copyright c ニッセイ基礎研究所 1996 All Rights Reserved